

# 山崎家について

中野区の北部、旧江古田村の名主家の一つです。

寛延3年(1750)、初代喜兵衛が独立し、農業のかたわら質屋を営みました。後に始めた醤油醸造で成功し、街道沿いの中野村や千駄木村にまで支店を出すなど有力な商家となりました。

こうした家業の隆盛により村内での地位も向上、三代目の時に江古田村丸山組の名主になります。この頃の年号の書かれた立派な陶磁器や漆器が多く残されていることから、江戸市中で花開いた庶民文化の影響を山崎家も受けていたと考えられます。

六代目は幕末の混乱にもよく耐え、明治以降も村の代表者、そして東京府会議員などを歴任しました。

八代目の折、時代の激変とともに山崎家も大きく変わります。



山崎家家紋



## 山崎家庭園・茶室

茶室・書院の建物は天保12年(1841)に建てられ「中野筋」の鷹場であった当地に幕府役人が来た際、ここに立ち寄ったといわれています。庭園・茶室は年2回春と秋に公開されています。



しょうい  
「醤油屋のしいの木」(中野区指定記念物)  
樹齢約500年ともいわれる椎の木。  
慶応4年(1868)、上野戦争で敗れた  
彰義隊が、この木の下で休息したと伝わっています。